

未来を見据え、生活を工夫し創造する資質・能力を育てる技術・家庭科教育

～課題を設定し、協働して解決する授業展開を通して～

福岡県中学校技術・家庭科研究会

小郡市立小郡中学校 松島 光

1 はじめに

福岡県は、北九州、京築、筑後、筑前、筑豊、福岡の6つの地区で構成されている。平成26年度の九州大会では、「よりよい生活を工夫し創造する生徒を育てる技術・家庭科教育～思考・判断・表現する活動の工夫を通して～」をテーマに掲げ、思考・判断・表現の活動における工夫やその評価方法を明確にする成果を上げた。しかし、課題として、生活に根ざした実践的な課題設定が十分でないことや、対話を通じて問題解決型学習を引き出す仕組みの検討が必要であることが指摘された。

令和4年度の第66回九州地区中学校技術・家庭科教育研究大会を終え、福岡県では令和元年度から行っている研究を継続している。今回は筑前地区を中心に大会が計画されており、各地区が持ち寄った実践例をもとに、6地区が協力して準備を進めている。特に、これまでの課題を踏まえ、生活に即した具体的な学習課題の設定や、生徒が主体的に取り組めるような学習活動の工夫が議論されている。大会では、これらの取り組みを通じて技術・家庭科教育のさらなる発展を目指している。

2 主題設定の理由

今を生きる子どもたちを取り巻く環境は、目まぐるしく変化している。AIやIoT、ロボティクス、ビッグデータ解析などの科学技術が急速に進化し、生活はこれまで以上に豊かで便利なものへと変化を遂げている。これらは、人間の夢や理想を科学技術が形にしてきた成果と言える。しかし、科学技術の進展は、新たな課題やリスクを生み出している。地球温暖化や環境破壊、エネルギー資源の枯渇、サイバー犯罪やプライバシー侵害、AIによる労働の代替といった問題に加え、人口減少や少子高齢化、社会的分断といった構造的課題も深刻化している。また、記録的な気象災害の頻発、新型コロナウイルス

感染症の流行とその影響、グローバルな感染症リスクの顕在化など、新しい時代の課題にも直面している。

こうした状況の中で、日本が目指すべき未来像として、経済発展と社会課題の解決を両立させる「Society 5.0」が提唱されている。この実現には、文章や情報を正確に読み解き、対話する力、科学的に思考・吟味し活用する力、新たな価値を見だし創造する感性と能力、そして未知の課題を探求し未来を切り拓く好奇心や探究心を持った人材の育成が不可欠とされている。また、身体的・精神的・社会的に良好な状態を指す『Well-being』への関心が高まり、これまで以上に多様な他者と互いに尊重しながら共に生きることの重要性が認識されるようになってきている。

このような背景を受け、技術・家庭科教育でもこれらの課題に対応する力を育成する必要性が高まっている。前学習指導要領における課題として、技術分野では、社会・環境・経済の多面的な視点から技術を評価し、その具体的な活用方法を考える力、目的や条件に応じた電気回路の設計や効率的な情報処理の工夫を行う力が求められている。一方、家庭分野では、社会構造の変化や家庭・地域の教育力の低下に伴い、家族の一員としての協力意識の低下、家庭や地域とのつながり、家庭での実践や社会への参画の不足といった課題が指摘されている。

そこで、本研究会では、「課題設定」と「協働的な学び」を研究の柱に据え、多様な制約の中で最適解を模索する力を養い、生活を工夫し創造する資質・能力の育成を目指して、本研究主題を設定した。

3 研究の内容

(1) 主題について

「未来を見据える」とは、よりよい社会を創造するために、先人たちが積み重ねてきた工夫や努力

の成果を踏まえつつ、現代社会が抱える課題に目を向け、未来に向けて取り組むべき課題や、その解決による社会や生活の変化を考えることである。人類はこれまで、様々な課題を乗り越えてきたが、その過程で新たな問題が発生していることも周知の事実である。これからの時代を生きる子どもたちには、目の前の課題を単に解決するだけでなく、その解決が引き起こす可能性のある新たな問題にも配慮し、総合的に最適な解決策を導き出す力が求められる。そして、それを通じて、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に貢献することが期待されている。

(2) 副題について

「課題」とは、現実存在する困難やトラブルなどの問題を解決するための目標や取り組むべきテーマのことを指す。ここでの「問題」とは、理想と現実のズレを意味する。問題は、対象や事象を空間軸と時間軸で整理すると生徒にとって、見出しやすくと考える。ここでの空間軸とは、教室内や学校内、家庭、地域、県、国といった範囲のことである。また、時間軸とは、一週間後や一か月後、1年後、5年後、10年後…近い未来から遠い未来までの期間のことである。「課題を設定する」とは、学習活動の中で、まず問題を発見し、その解決に向けて必要なものや方法を考え、自分がこれから何をどのように実践するかを明確にすることである。「協働して解決する」とは、個々がそれぞれの役割を果たしながら、一緒に目標を達成することである。協働するためには、他者の存在が必要不可欠であり、本研究における他者とは、「学習者」「授業者」「援助者」の三つの立場の人のことを指す。他者の立場と役割については以下の表の通りである。

立場	例	役割
学習者	級友	考えを交流したり、共に活動したりすることで、課題解決の実現を目指す
授業者	教職員	課題解決に必要な知識・技能を与え、生徒の主体的な活動を支える
援助者	家庭地域の人材	専門的な知識や経験を活かして、アドバイスやサポートを行う

「課題を設定し、協働して解決する授業展開を

通して」とは、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を高めるために、問題発見から課題設定を行い、多様な立場の他者と協働して活動する場を授業の中に位置づけることである。

「課題設定」と「協働的な活動」を意図的に、また繰り返し仕組んでいくことで、生徒は単に技術的な知識や技能を身につけるだけでなく、課題を発見し、解決策を模索する資質・能力を身につけることができる。これにより、生徒はよりよい未来を創造するために生活を工夫していこうとする態度を育むことができると考える。

4 めざす生徒像

めざす生徒像を以下の3つの資質・能力を身につけた生徒とする。

- 問題を見出したり、課題を解決したりするために必要な基礎的な知識とそれらに係る技能【知識及び技能】
- 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、見方・考え方を働かせながらその解決策を考えたり、実践を評価したりすることができる力【思考力、判断力、表現力等】
- よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、身につけた力を実際の生活の中に生かそうとする実践的な態度【学びに向かう力、人間性等】

5 研究構想図

